

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 金/2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目 (英語名)	環境と文化 (Environments and Cultures)		
対象年次 1-2 年次	講義形態	講義	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類	総合科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー			
正本 忍 / masamoto@nagasaki-u.ac.jp / 環境科学部4階 406 / 金曜日 14:00 ~ 15:00			
担当教員(オムニバス科目等)	正本忍(科目責任者)、吉田雅章、池田幸恵、若木太一、松田雅子、菅原潤、福島邦夫、葉柳和則、増田研、連清吉		
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>講義のねらい:文化とは人間に固有の生活様式の総体をいい、知識、信仰、芸術、道徳、法律、風習などの諸要素を含んでいる。本講義のねらいは、「環境」を自然環境に限定せず、上述のような文化を「環境」として捉える見方を身につけることである。</p> <p>講義方法:本講義では文化を人間を取り巻く「環境」として捉える観点から、まず環境と文化の関連について原理的な考察を試みた上で、自文化理解、異文化理解、異文化交流の事例を、長崎を初めとする日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカという地域性をひとつの手がかりにして考察する。</p> <p>到達目標:受講者は、単にエコロジーや地球環境保全といった一般的な環境観だけでなく、文化の側面から見た新たな環境観を語る事ができるはずである。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>本講義では、「環境」を自然環境に限定せず、文化環境、社会環境も含めたより広い概念として捉え、哲学、倫理、思想、歴史、文学、語学、民俗学、人類学、社会学などの角度から照射した様々な「環境」が語られる。</p> <p>1回目 オリエンテーション(代表者他)</p> <p>2回目 環境問題と文化(1) 吉田)</p> <p>3回目 環境問題と文化(2) 吉田)</p> <p>4回目 遣唐使と日本文化(池田)</p> <p>5回目 唐寺・唐人屋敷をめぐる文化交流(1)(若木)</p> <p>6回目 唐寺・唐人屋敷をめぐる文化交流(2)(若木)</p> <p>7回目 長崎とイギリス(1)(松田)</p> <p>8回目 長崎とイギリス(2)(松田)</p> <p>9回目 ドイツの環境思想(菅原)</p> <p>10回目 九州沿岸部離島における巫女の伝統(福島)</p> <p>11回目 近代日本の文化表象に見る環境思想(葉柳)</p> <p>12回目 外からのアフリカ/内からのアフリカ:環境としての世界観をめぐって(増田)</p> <p>13回目 宮崎駿『もののけ姫』を読み解く(正本)</p> <p>14回目 東アジアの文化と環境(連)</p> <p>15回目 定期試験</p>			
キーワード	環境、文化、長崎、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。参考文献は講義中に紹介する。主要な参考文献は、長崎大学文化環境研究会編『環境と文化』(九州大学出版会、2000年)など。		
成績評価の方法・基準等	定期試験(論述形式)(40%)、小レポート(60%)		
受講要件(履修条件)	「環境」を自然環境に限定せず、文化環境、社会環境も含めたより広い概念として捉えられる学生が望ましい。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			